

平成 31 年 2 月 15 日

平成 30 年度学校関係者評価報告書

学校法人静岡県美容学園  
静岡県美容専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人静岡県美容学園静岡県美容専門学校学校関係者評価委員会は、平成 30 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者による評価会議を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1 実施日

平成 31 年 1 月 28 日 (月)

2 場所

静岡県美容専門学校 会議室

3 実施内容

授業参観、学校報告会及び意見交換

4 学校関係者 (評価者)

中溝 一仁氏 ((有)アクセスユープラン 代表取締役)

中村 洋一氏 (静岡県立静岡商業高等学校教諭)

小澤 知彦氏 (静岡県立静岡西高等学校教諭)

増田 佳子氏 (静岡県立駿河総合高等学校教諭)

齊藤真理子氏 (昼間課程 2 年生保護者)

5 報告者

校長 杉本 淳光

教務主任 蒔田 英司

副教務主任 望月ひとみ

国家試験担当 長尾 紀子

総務担当 園田 環

事務局長 提坂 直

6 参列者

副理事長 島谷 人生

常任理事 中島 將博

## 7 評価会議の概要

<はじめに>

本校は、平成 23 年度から学校の質保証と向上を目指して「学校自己評価」を行っている。具体的には、教職員による「自己評価」と、「学生による学校満足度の調査」・「授業アンケートの集計」を行い、学校が抱える課題の明確化と改善を図ってきた。

本校では、この「自己評価」に加えて、組織的で継続的な教育活動の改善とキャリア教育の充実を一層図るため、平成 25 年度から外部の有識者による「学校関係者による評価会議」を開催して、指導・助言や提言を頂いている。

当日は、初めに授業参観で学生の取組状況を見ていただいたのち、学校からの報告、評価会議の順に進めた。会議では、学校の特徴的な取組などを各担当から説明した後、評価者から意見、改善すべき点、提言等を伺った。

<授業参観の感想>

- ・ 国家試験に対して緊張感をもって真剣にやっている様子が伺えた。
- ・ 私語もなく授業に取り組んでいる姿を見ることができた。
- ・ 明確な目的意識が学生を成長させているということが感じとれた。
- ・ 実技は当然ながら座学も大事にして真剣に取り組む姿勢が感じとれた。

<学校関係者による意見、提言等>

### 1 教育理念・教育目標

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 特になし

### 2 教育活動

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 学生が将来、美容室を開業したり管理職的な地位になったりしていくと思われるので、開業のための基礎知識やマーケティングなど、将来を見据えた授業があってもよい。
- ・ 高校では外部講師に依頼することが多くなってきているので、専門学校でも外部講師を依頼する回数は十分確保したほうがよい。

### 3 学生受け入れ

(学校関係者の評価・提言)

- ・ 先日、静岡市で開催された東京ガールズコレクションなどのイベントで貴校の学生が補助作業に参加していたということを高校生が知ることができれば、大都市の専門学校だけでなく静岡市内の専門学校にも興味を持ってもらえる。
- ・ 東京ガールズコレクションが静岡で初めて開催され、今後も開催されていくことができれば、若年層は敏感なので「静岡でもイベントがある」という意識になってくると思うと楽しみです。
- ・ 同じく東京ガールズコレクションが開催されたツインメッセの南館で、高校生が販

売実習を実施していた。ショーの会場に入場できなかった一般の方たちが、南館に入場しているようだった。高校生の入場者も見られたので、専門学校もヘアアレンジなどのブースの出展ができるとアピールしやすい。

- ・外部での活動を積極的に取り入れていることが理解できたが、新聞記事では他の専門学校のほうがアピールしているように見受けられる。積極的な新聞記事の掲載などでアピールすることが必要だ。
- ・大都市の専門学校は華やかさやコンテストの周知が上手で、そのような華やかなところを高校生は見て興味を持っている傾向がある。広報でのアピールがやはり重要である。
- ・入試形態によって国家試験の合格率が変わるということを聞いたことがある。仮に入試形態によって大きな差がでるようであれば、入試の段階での何らかの工夫があるといい。
- ・高校で専門学校を選ばせているときに、学校の専門性と生徒の希望をマッチさせることが必要だ。

#### 4 教職員組織

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

#### 5 施設・設備等

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし

#### 6 学生生活支援

(学校関係者の評価・提言)

- ・今年の4月に専門職大学が3校開校する。また17校が申請を予定していた。その多くは専門学校が専門職大学に衣替えを行うということであった。保護者からすると、技術が身に付く専門学校は魅力的ではあるが、専門職大学は、技術の習得と学士の取得ができることになるのでさらに魅力的であるといえる。
- ・専門職大学を目指すということは、少子化が進む中で学校教育法的一条校になることができるということ、また専門職大学が増えてくると、「ボーダーフリー」と呼ばれる偏差値が非常に低い大学がなくなっていくだろうといったときに、専門学校のニーズがあがってくるのではないか。
- ・文科省が進めている高等教育無償化において、一条校ではないのに専修学校が対象として含まれている。中長期的な意味では、専門職大学を目指すこともそうですが、高等教育無償化に適合できるように目指すことも必要である。
- ・授業料の納入方法について、保護者への負担軽減のため、学校の振込通知書を使用しない方法で銀行の窓口を通らずに授業料等の納入ができるようにしたほうがよい。ネットバンクやATMを活用して授業料の納入ができるように検討することも必要だと思う。

- ・学生の満足度アンケートは、選択肢から「普通」を除いて4段階にしてみることに  
よって、「良い」「悪い」の判断が明確になると思う。

## 7 管理運営

(学校関係者の評価・提言)

- ・特になし